

自助^[じじょ]

自分の身を自分の努力で守ること

【日ごろできること】

自宅の耐震診断・耐震改修
家具などの転倒防止
非常持出袋の準備 など

「自分の命は自分で守る。」 防災の基本

自宅を安全な空間にすることは、そこに住んでいる人にしかできないことです。地震の揺れの中では、誰もが自分の身を守ることはできません。揺れが収まったとき、自分の目の前で火災が発生していたら、それを最も早く消すことができるのは自分です。家族がけがをしていたら、最も早く応急手当できるのも自分です。このように、自分で自分の命や家族、財産を守るための備えと行動を「自助」といいます。



「自分たちの地域はみんなを守る。」 地域を守るのに最も効果的な方法

自分が生き埋めになったとき、それに気づいて、救出活動を始めしてくれるのは誰でしょう？ 阪神・淡路大震災のとき、消防や警察などの防災機関は、同時にすべての現場に向かうことはできませんでした。まずは、近所の方が協力して救出してくれるのを待つのが現実的です。

消火活動も救出活動も、早く始めるほど、そして、多くの人に参加するほど、被害を小さくすることができます。災害時に協力するためには、ふだんからの近所づきあいや地域での交流が大きな力になります。このように、近所の人たちが協力して地域を守るための備えと行動を「共助」といいます。

共助^[きょうじょ]

身近な人たちがお互いに助け合うこと

【日ごろできること】

ふだんからの近所づきあい

自主防災会への参加

応急手当の方法の習得 など

公助^[こうじょ]

行政機関などによる救助・援助

【携わる機関】

国(自衛隊など)

県(警察など)

市(消防署など) ほか

「行政機関がみんなを守る。」 自助・共助では解決できない仕事を担当

市役所や消防、警察などの行政機関や、電気・ガスなどのライフラインサービスを提供する公共機関が行う応急対策や活動が「公助」です。

田原市役所はもちろん、各機関すべてが、災害発生からできるだけ早く応急対策活動を行えるよう、日ごろから備えています。



必要な活動を行えます。逆に、共助を支える人が被災し、共助が機能しなくなると、公助の消防機関などは、すべてに対処できなくなってしまいます。

スムーズな自助・共助・公助の
連携

自助・共助・公助は、お互いを支え合う関係にあります。それぞれが役割を果たし、協働することにより、地域防災力が高まっていきます。

自分一人では対応できない状況になったとき、まず頼れるのは共助。ただし、頼るためには、自分に被害がなく、共助に参加できることが前提です。そして、その後は公助と協力して対処していくこととなります。公助による支援を皆さんに行き届かせるためには、共助との連携が必要不可欠なのです。連携がスムーズにできれば、自分や地域の被害を最小限に抑えることができ、早い復旧、復興につながります。

9月1日は、「防災の日」です。この機会に、自分にできることを考えたり、家族で話し合ったりしてみたいかがでしょうか。

防災対策室 23局3548